

現地を訪問して思う事

2008年法学部卒業

神農由希子

私は今回、立命館大学校友会「東日本大震災復興支援事業東北応援ツアー」の「福島・会津コース」に参加しました。福島の現状を知りたかったことと、少しでも福島の方々の力になりたいと思ったことがきっかけでした。

1日目に訪れた「会津活・活自然村」では、福島県の農業の現状について学びました。原発問題で福島県の野菜を食べてもらえないことなど、生産者の方々のお話をお伺いしました。また、そこで取れた野菜で「芋煮」や「かぶの漬物」、福島の米で作ったつくたての「きなこもち」などたくさん振る舞って頂き、とてもおいしく頂きました。次に訪れた「末廣酒造」では、江戸時代から会津地方の経済を支えた「酒造り」の工程を見学しました。最高級の「大吟醸」は、とても口当たりが良く味わい深いお酒でした。

2日目は福島県の名所を楽しみました。会津戦争の際、白虎隊が自刃した「飯盛山」、茅葺屋根の宿場が並ぶ「大内宿」、会津藩士たちが様々なことを学んだ「日新館」。会津は歴史的に見ても非常に重要な都市です。今年はNHK大河ドラマ「八重の桜」の舞台として注目されており、観光客も震災前の半分くらいまで回復したといえます。

私は当初、今回の東北応援ツアーは、東北の方々に対して何かボランティアのようなことをするのだと思っていました。しかし、実際のツアーは福島の農家や酒造の現状を知ることや、観光を通して現地の方々と交流することでした。校友会の方々のお話にもありましたが、福島の方々が本当に望んでいることは寄付やボランティアということだけではなく、ひとりでも多くの方に福島に「来てもらう」こと、福島で作ったものを「食べてもらう」こと、そして福島を「知ってもらう」こと、福島について「考えてもらう」ことです。今回のツアーを通して私はそれを感じることができました。全国の校友会の皆さまにもぜひこのような活動を知り、参加してほしいと思いました。そして、自分の考えを持ってほしいと思いました。

最後になりましたが今回のツアーを企画・運営して下さった校友会の皆さま、現地でたくさんのおもてなしをして下さった皆さま、いっしょにこのツアーに参加して下さった卒業生の皆さま、素晴らしい経験をさせて頂き本当にありがとうございました。